

令和4年度

2年

専門教科

シラバス

園芸高等学校

フラワーファクトリ

学設_2年キャリアアップ_R4 シラバス.....	1
学設_2年園芸デザイン_R4 シラバス.....	3
2年果樹_R4 シラバス.....	5
2年総合実習_R4 シラバス.....	8
2年草花_R4 シラバス.....	11
2年課題研究_R4 シラバス.....	14
2年農業情報処理_R4 シラバス.....	17
2年野菜_R4 シラバス.....	20

環境緑化

学設_2年キャリアアップ_R4 シラバス.....	23
2年総合実習_R4 シラバス.....	25
2年緑化技術_R4 シラバス.....	28
2年課題研究_R4 シラバス.....	31
2年農業情報処理_R4 シラバス.....	34
学設_2年環境計画_R4 シラバス.....	37
学設_2年緑化技術_R4 シラバス.....	39
学設_2年自立造園製図_R4 シラバス.....	41
学設_2年造園製図_R4 シラバス.....	43

バイオサイエンス

2年総合実習_R4 シラバス.....	45
2年課題研究_R4 シラバス.....	49
2年農業情報処理_R4 シラバス.....	52
学設_2年バイオサイエンス基礎(実験)_R4 シラバス.....	55
学設_2年バイオサイエンス基礎(座学)_R4 シラバス.....	57
学設_2年フードサイエンス基礎(実験)_R4 シラバス.....	59
学設_2年フードサイエンス基礎(座学)_R4 シラバス.....	61
学設_2年自立バイオサイエンス基礎_R4 シラバス.....	63
学設_2年自立フードサイエンス基礎_R4 シラバス.....	65
学設_2年キャリアアップ_R4 シラバス.....	68

(別紙様式3-②)

学校番号	3001
------	------

1 枚のうちの 1

令和4年度「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
農業	キャリアアップ	2	2	日本語ワープロ検定試験模擬問題集

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロ文章作成の能力・技能を身につける。 ・生物分類技術検定、農業技術検定に合格できるための知識を身につける。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロ検定（日本情報処理検定協会）資格取得にむけての実技練習を行う。 ・生物分類技術検定、農業技術検定の資格取得を目指して学習を行う。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4	受験級決定の速度テスト 農業技術検定・生物分類技術検定について	3級の模擬試験で入力速度をテスト、めざす受験級の決定 検定試験の意義、試験までの学習のすすめ方について	入力文字数で評価(入力数伸び率による) 取組みの姿勢と出席状況 観点別評価	正しい姿勢で入力できているか 真面目に授業にのぞんでいるか より上の受験級をめざし努力できているか ビジネス文書の構成をよく理解し作成できているか 生物分類技術検定・農業技術検定の資格取得ができているか、
5	速度を中心とした練習	初歩の生徒には基本的な文字の入力とタッチタイピングの指導	ワープロ検定の採点基準の採用 取組みの姿勢と出席状況 観点別評価	
6	過去問題からの演習	ワードの基本的な操作についての指導 農業および生物分類に関する基本的知識についての整理、確認		
7	文書を中心とした練習 検定試験の模擬試験	ビジネス文書の構成(前付け 時候の挨拶 付記)についての指導 検定試験に備えた実践学習	取組みの姿勢と出席状況 観点別評価	
8				
9	文書を中心とした練習	ビジネス文書の構成(前付け 時	授業態度	真面目に授業にのぞんでいるか

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

1 0	過去問題からの演習	候の挨拶 付記) についての指導 第1回検定結果をふまえての受験級位の確認	提出物	板書をノートに書き写しているか
1 1			定期考査	農業技術検定の資格取得ができているか
1 2	検定試験の模擬試験	検定試験に備えた実践学習	観点別評価	
1	文書を中心とした練習			
2	まとめ学習			
3				

学校整理番号	3001
--------	------

2枚のうちの1

令和4年度「学校設定科目」届（指導と評価の年間計画）

府立 園芸 高等学校 全日制の課程 フラワーファクトリ科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名	副教材名等
農業	園芸デザイン	3	2		はじめての花づくり主婦の友社

到達目標	植物の種類と特徴を知り、各植物に合う利用方法を理解し、実際に花壇、装飾に利用する力をつけさせる。デザインの基礎となる理論を身につけさせる。 花壇苗の栽培技術を習得させる。
到達目標に向けての具体的な取り組み【指導上の留意点】	生徒の主体的な授業への取り組みを重視する。 季節やイベントにあった作品制作ができる力を身につけ、発表の機会をもつ。 多くの植物や資材に触れ、知識を増やす。 は種、鉢上げ、管理、出荷等の流れを経験しながら、栽培技術を向上させる。

学期	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
1	海外の花壇について	ビデオ・写真等観賞 1. 花壇の様式 2. 色彩の構成 3. 植物の種類など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み状況の観察 ・ デザインや作品の評価 ・ 記録、報告書 ・ 発表 ・ 筆記試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観点別評価をおこなう ・ 授業に主体的、意欲的に取り組んでいるか ・ 技法が理解でき、技術が習得できているか ・ 記録がわかりやすく、正確になされているか ・ 管理が適切に行われているか。 ・ 目的、技法に合うデザイン作品となっているか ・ 各名称や特徴を知り、理論の理解ができているか
	花苗作り	1. は種 2. 鉢上げ 3. 花がら摘み 4. 株広げ 5. 出荷調整		
	夏花壇の植え付け	1. 抜き取り、除草 2. 整地 3. 植付け		
	夏花壇の管理	1. 除草 2. 施肥・花ガラ摘み		
	色彩について	1. 色の成り立ち 2. はたらき		

2	花苗作り	1. は種 2. 鉢上げ 3. 花がら摘み 4. 株広げ 5. 出荷調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み状況の観察 ・ 記録、報告書 ・ デザインや作品の評価 ・ 発表 ・ 筆記試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に主体的、意欲的に取り組んでいるか ・ 技法が理解でき、技術が習得できているか ・ 記録がわかりやすく、正確になされているか ・ 管理が適切に行われているか。 ・ 目的、技法に合うデザイン作品となっているか ・ 各名称や特徴を知り、理論の理解ができていますか
	秋のコンテナガーデン制作	1. 植物の組み合わせ 2. 植付け 3. 管理		
	ハンギングバスケットの制作	1. ハンギングガーデンの説明 2. 植物の組み合わせ 3. 植付け 4. 管理について		
	秋花壇の制作	1. デザインの立案・決定 2. 抜き取り、除草 3. 施肥・起耕 4. 整地・植付け		
	花壇管理	1. 除草 2. 施肥・花ガラ摘み		
	デザインの構成原理	花壇デザイン 1. 平面図作成 2. 投視図作成		
	春花壇の制作	1. デザインの立案・決定 2. 植付けⅠ抜き取り、除草、起耕 3. 植付けⅡ整地・植付け		
3	花苗作り	1. は種 2. 鉢上げ 3. 花がら摘み 4. 株広げ 5. 出荷調整	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組み状況の観察 ・ 記録、報告書 ・ デザインや作品の評価 ・ 発表 ・ 筆記試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に主体的、意欲的に取り組んでいるか ・ 技法が理解でき、技術が習得できているか ・ 記録がわかりやすく、正確になされているか ・ 目的、技法に合うデザイン作品となっているか ・ 各名称や特徴を知り、理論の理解ができていますか
	ミニガーデンの制作	1. 植物選び 2. ガーデンデザインの立案 3. ガーデン施工 4. ガーデンの説明と評価		
	デザイン提示について			

学校番号	3001
------	------

令和4年度 フラワーファクトリ科

教科	農業科	科目	果樹	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書	果樹（実教出版）						
副教科書							

1. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

各種果樹の基本的な生理現象や栽培管理、繁殖方法についての知識を習得するとともに実際に体験することで、実践的な知識の習得を目指します。

2. 学習の到達目標

- ・果樹の特性や果樹栽培に適した環境を理解させ、果樹の栽培と果樹園の経営に必要な知識と技術を習得させるとともに、生産性の向上を図る能力と態度を育てる
- ・各種果樹の栽培を体験させ、それぞれの作業の意義や役割を理解させ、果樹経営に関する興味付けを行う。

3. 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：技能	d：知識・理解
観 点 の 趣 旨	果樹の栽培管理について興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組むとともに、各栽培管理方法とその目的、技術について探究しようとしている。	①栽培管理の方法とその目的を関連付けて思考を深めている。 ②実習において自分が何をすべきか適切に判断、行動している。	各果樹の栽培管理作業の目的や意味を関連付け、理解した上で、作業する技能を身に付けている。	果樹の栽培管理に必要な基本的知識（各果樹の生育・生理、結果習性、樹木の枝の構造、枝の種類・特性）を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 実技課題	学習状況の観察 レポート	学習状況の観察 実技テスト 実技課題	学習方法の観察 定期考査 レポート

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(教材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	果樹の成長と栽培環境 果樹の栽培管理	○果樹の生育と生理 ○果樹の栽培管理 摘果(ビワ、モモ、ナシ) 袋かけ(ビワ、モモ、ナシ) 摘粒、花穂の切り込み、摘房、摘心(ブドウ)	○			○	a: 果樹の栽培管理について興味・関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 b: 作業の意味を理解し、次に自分が何をすべきか適切に判断、行動している。 c: 各栽培管理作業において、基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 果樹の生育と生理に関する基本的知識、各種栽培管理作業の意義や原理を理解している。	授業観察 定期考査 実技課題 ノート
2学期	果樹の栽培管理	○果樹における繁殖方法とその原理 ○果樹の繁殖(実技) 切り接ぎ 芽接ぎ ○果樹の栽培管理 礼肥 収穫・販売(ミカン、カキ)	○			◎	a: 果樹の栽培管理について興味・関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 b: 作業の意味を理解し、次に自分が何をすべきか適切に判断、行動している。 c: 各栽培管理作業や接ぎ木において、基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 果樹の繁殖に関する基本的知識、各種栽培管理作業の意義や原理を理解している。	授業観察 定期考査 実技テスト 実技課題 ノート

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

3 学 期	果 樹 の 栽 培 管 理	○果樹の生育と生理 特にせん定を中心 ○果樹のせん定 ・モモ ・ブドウ ・ナシ ・カキ ・クリ	○	○	◎	○ a：果樹のせん定について 興味・関心をもち、主体的 に学習に取り組もうとし ている。 ◎ b：作業の意味を理解し、 次に自分が何をするべ きか適切に判断、行動し ている。 各果樹の結果習性、枝の 配置や構造、養分の分配 や樹高、来年度の樹形を イメージし、適切に判断 しながらせん定に取り 組んでいる。 c：せん定において、基本 的な技術(切り方、目的に 合ったせん定の方法)を 身に付け、その技術を活 用している。 d：せん定に関する基本的 知識や原理を理解してい る。	授業観察 定期考査 実技テスト ノート
-------------	---------------------	--	---	---	---	---	------------------------------

※原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することになるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○または◎をつけている。

学校番号	3001
------	------

令和4年度 フラワーファクトリ科

教科	農業	科目	総合実習	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

1年生の「総合実習」では、フラワーファクトリ科の各分野の知識・技術を全般的に学びました。これに対し、2年生の「総合実習」では、普段それぞれの専攻で扱っている植物について、春期や夏季に長時間実習に取り組むことで、総合的な知識・技術を身につける授業です。また、放課後を利用して普段の管理栽培技術の習得も目指しましょう。

2 学習の到達目標

- ・普段の実習や座学で学んでいる植物について、日常の管理方法や栽培に関する技術を復習する。
- ・授業で扱っている植物に関して、知識を深める。
- ・農業クラブ活動について、知識を深める。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	農業の各分野について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	農業に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、農業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	農業の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業の意義や役割を理解している。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述 課題など	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述 課題など	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述 農業クラブ級位検定	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述 農業クラブ級位検定 課題など

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりとともに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	専門技術 総合実習	栽培管理の知識 と技術	○		○	○	a: 時季に応じた専門技術に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 時季に応じた専門技術についての諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 時季に応じた専門技術について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 時季に応じた専門技術について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	学習状況の 観察 ノートや記録簿の記述 農業クラブ 発表会・級 位検定 課題など
	学校農業 クラブ活動	各種発表会への 参加 級位検定	○	○		○		
2学期	専門技術 総合実習	栽培管理の知識 と技術	○		○	○	a: 時季に応じた専門技術に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 時季に応じた専門技術についての諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 時季に応じた専門技術について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 時季に応じた専門技術について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	学習状況の 観察 ノートや記録簿の記述 農業クラブ 級位検定 課題など
	学校農業 クラブ活動	級位検定			○	○		
3学期	専門技術 総合実習	栽培管理の知識 と技術	○		○	○	a: 時季に応じた専門技術に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 時季に応じた専門技術についての諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 時季に応じた専門技術について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 時季に応じた専門技術について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	学習状況の 観察 ノートや記録簿の記述 課題など
	学校農業 クラブ活動	一年間の振り返りと、次年度の取り組みの設定 プロジェクト活動の課題設定など	○	○	○	○		

学校番号	3001
------	------

令和4年度 フラワーファクトリ科

教科	農業	科目	草花	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書	「草花」 (実教出版)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

農業の栽培分野 (草花) における知識や栽培技術および販売、利用について体験的に学ぶ科目です。スプレーグクを主な教材としてその生理・生態的な特性を知ること、草花の栽培や繁殖技術、また出荷に至るまでについて学びます。またフラワー装飾についても草花の特性を生かし、目的に応じた作品制作をします。実習の中で自ら課題を発見し、その解決のため、工夫や改善を行い、実践的な能力と態度を身に付けましょう。

2 学習の到達目標

- ・草花の生産と経営に必要な知識と技術を習得し、草花の特性や生産に適した環境を理解する。
- ・草花の特性を理解し、フラワー装飾技術の向上と工夫改善を図る能力と態度を身につける。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・理解
観点の趣旨	草花の生理・生態的な特徴や栽培管理に関心を持ち、草花の特性に応じた栽培管理を意欲的に行うとともに、環境と調和した持続的な農業生産を視野に栽培技術の向上と工夫を図る態度を身につけている。	草花の栽培管理や生産物の商品化や流通など経営面を多面的に考察し、草花の特性に応じた栽培管理を科学的に考察・判断するとともに、合理的な栽培管理や品質の向上を図る実践的な能力を身につけている。また、目的に応じた装飾方法を判断し、表現できている。	栽培管理、施設の利用、栽培環境の調節など草花の栽培と経営に関する基本的な技術を身に付け、栽培における観察や栽培評価から経営状況を判断・考察し、問題点や改善点について正確に表現する。また、草花の特性を生かし、目的に応じた作品制作を行う。	草花の特性や栽培管理施設の利用、栽培環境の調節など草花の栽培と経営に関する基本的な知識を身に付け、栽培技術や栽培管理を理解している。

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

評価方法	学習状況の観察 ノート レポート 自己評価	学習状況の観察 ノート レポート 自己評価	学習状況の観察 ノート レポート 自己評価 制作作品での評価	学習状況の観察 ノート レポート 自己評価 定期考査の結果等
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	専門技術	栽培管理の知識と技術	○		○	○	a:時期に応じた専門技術と経営管理に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:時期に応じた専門技術と経営管理における諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。また、目的に応じた装飾を判断し、表現できている。 c:時期に応じた専門技術と経営管理について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。また、作品制作を通して、植物の特性に応じた装飾技術を身に付けている。 d:時期に応じた専門技術と経営管理について理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。	学習状況の観察 ノート レポート 定期考査 制作作品での評価 自己評価
	経営管理	経営管理の知識と技術	○	○				

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

2 学期	専門技術 経営管理	栽培管理の知識と技術 経営管理の知識と技術	○ ○	○ ○	○ ○	<p>a: 時期に応じた専門技術と経営管理に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。</p> <p>b: 時期に応じた専門技術と経営管理における諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。また、目的に応じた装飾を判断し、表現できている。</p> <p>c: 時期に応じた専門技術と経営管理について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。また、作品制作を通して、植物の特性に応じた装飾技術を身に付けている。</p> <p>d: 時期に応じた専門技術と経営管理について理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。</p>	<p>学習状況の観察</p> <p>ノート</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p> <p>制作作品での評価</p> <p>自己評価</p>
3 学期	専門技術 経営管理	栽培管理の知識と技術 経営管理の知識と技術	○ ○	○ ○	○ ○	<p>a: 時期に応じた専門技術と経営管理に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。</p> <p>b: 時期に応じた専門技術と経営管理における諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。また、目的に応じた装飾を判断し、表現できている。</p> <p>c: 時期に応じた専門技術と経営管理について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。また、作品制作を通して、植物の特性に応じた装飾技術を身に付けている。</p> <p>d: 時期に応じた専門技術と経営管理について理解し、基礎的・基本的な知識を身につけている。</p>	<p>学習状況の観察</p> <p>ノート</p> <p>レポート</p> <p>定期考査</p> <p>制作作品での評価</p> <p>自己評価</p>

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3001
------	------

令和4年度 フラワーファクトリ科

教科	農業	科目	課題研究 (F F)	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>2年生の課題研究では、「草花A (切り花アレンジ)」「草花B (菊・鉢物)」「園芸デザイン」「野菜」「果樹」の5つの専攻班に分かれて授業を行います。</p> <p>それぞれの専攻において課題を設定し、3年生での卒業論文作成に向けて栽培、調査、実験、研究などを行います。また、その成果を農業クラブなどで発表してください。</p>
--

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文作成に向けて課題を設定する。 設定した課題について、実施計画を作成する。 計画に従って栽培、調査などを行い、その結果を正確に記録する。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	自分の専攻分野について関心を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	自分の専攻分野に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、農業に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	自分の専攻分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、農業に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	自分の専攻分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、農業の意義や役割を理解している。
評 価 方 法	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述 課題の計画案 など	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述 課題への取り組み など	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述 課題への取り組み など
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	課題設定	課題研究のテーマ設定	○	○	○		a: 時季に応じた専門技術に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 時季に応じた専門技術についての諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 時季に応じた専門技術について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 時季に応じた専門技術について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述 課題の計画案など
	課題解決に向けた取り組み	計画案の作成	○		○			
		実験、実習など解決に向けた取り組み	○	○		○		
2学期	課題解決に向けた取り組み	実験、実習など解決に向けた取り組み	○	○	○	○	a: 時季に応じた専門技術に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 時季に応じた専門技術についての諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 時季に応じた専門技術について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 時季に応じた専門技術について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述 課題への取り組みなど
		実験、実習データの処理	○	○				
	中間報告	計画のまとめ	○	○		○		
		計画の見直し	○	○				
3学期	研究発表に向けた取り組み	実験、実習など解決に向けた取り組み	○	○	○	○	a: 時季に応じた専門技術に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 時季に応じた専門技術についての諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 時季に応じた専門技術について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 時季に応じた専門技術について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	学習状況の観察 ノートや記録簿の記述 課題への取り組みなど
		実験、実習データをまとめる	○	○	○			
	次年度への取り組み	研究成果の発表	○	○				
		次年度取り組むべき課題の設定	○	○		○		

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現

c:技能

d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3001
------	------

令和4年度 フラワーファクトリ科

教科	農業	科目	農業情報処理	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	農業情報処理 (実教出版)						
副教科書							

5. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

社会における情報化の進展により、ある程度の情報処理技術が進学または就職する上で必要となってくる。本科目では情報の意義や役割の理解、情報処理に関する知識と技術の習得、農業の各分野で情報及び情報手段を活用する能力と態度を育てる。

6. 学習の到達目標

- ・コンピュータ活用の基礎を習得する。
- ・ソフトウェアの利用、特にワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト及びインターネットの活用についての基礎的な知識・技能を習得する。

7. 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：技能	d：知識・理解
観 点 の 趣 旨	パソコンや各ソフトウェアの操作に関心を持ち、課題に対して改善・向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	各ソフトウェアの基礎的・基本的な知識を基に適切に判断し、わかりやすい資料やスライドを表現する創造的な能力を身に付けている。	パソコンおよび各ソフトウェアに関する基礎的・基本的な操作技術を身に付け、適切に活用している。	パソコンおよび各ソフトウェアの操作、情報倫理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 実技課題	学習状況の観察 実技テスト 実技課題	学習状況の観察 実技テスト 実技課題	学習方法の観察 定期考査 実技テスト 実技課題

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

8. 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(教材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	コンピュータによる情報の活用 ③ワードプロセッサの利用	○コンピュータの基本操作・知識 起動・終了 情報倫理 ○ワードの基本操作 文字の入力、削除、複製、挿入 ファイルの保存 罫線、フォント、網掛け 表の作成および編集 文書作成 図の挿入 ポスター作成	○			◎	a: コンピュータの操作に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 文字や文章、図形や表の編集を行い、読み手にわかりやすい文書やポスターの作成をしている。 c: ワードの操作において基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: ワード操作の基本的知識、文書作成のルールを理解している。	授業観察 定期考査 実技課題
2 学期	④表計算ソフトウェアの利用	○エクセルを用いた計算(四則計算)、関数の利用(合計、平均、最大、最小)、 ○表およびグラフの作成	○		◎	○	a: エクセルを用いた表計算やグラフの作成に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 目的の計算を行い、表・グラフを作成するためにはどのような操作が必要になるかを考え、適切な方法で実行している c: エクセルにおける基本的な操作を身に付けている d: エクセル操作の基本的知識、文書作成のルールを理解している。	授業観察 実技テスト 実技課題

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

3 学 期	⑦ プレゼンテーションソフトウェアの利用	○パワーポイントを用いたスライドの作成(テキストボックス、図の挿入・編集、アニメーション) ○発表原稿を基に発表スライドの作成	○	○	◎	◎	○ a: パワーポイントを用いたスライドの作成に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: どのようなスライドを作成すればより効果的に伝わるかを考え、文字の大きさ、図、グラフ、配置を工夫し、スライドを作成している。 c: パワーポイントにおける基礎的な操作を身に付けている d: パワーポイント操作の基本的知識、わかりやすいスライド作成のルールを理解している。	授業観察 実技テスト 実技課題
-------------	----------------------	--	---	---	---	---	---	-----------------------

学校番号	3001
------	------

令和4年度 フラワーファクトリ科

教科	農業	科目	野菜	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書	「野菜」 (実教出版)						
副教材等							

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

実習を中心に野菜の生産、販売、流通などについて学習します。一年を通じて、多種多様な野菜を生産するため、栽培管理が主な実習作業になります。暑さ、寒さ、時には雨が、と言ったように、計画通りに進まないこともあります。思うままにならない自然を相手にたくさんのお話を学んでいきましょう。

2 学習の到達目標

野菜の栽培管理に関して、基本的な知識、技能を身につける。また、流通や販売に関する体験を積み重ねることにより、コミュニケーション能力などを養うとともに、野菜の普及に努める。

3 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	まず、野菜を食べることに興味を持つ。野菜の種類、栽培管理について興味を持ち、その改善・向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけている。	野菜に関する諸問題の解決を目指して思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、野菜栽培、販売に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身につけている。	野菜の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、野菜栽培、販売に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	野菜の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、野菜栽培、販売の意義や役割を理解している。
評 価 方 法	学習状況、実習態度の観察 ノートや記録簿の記述 課題など 販売実習の態度	学習状況、実習態度の観察 ノートや記録簿の記述 課題など 販売実習の態度 ポスター作成	学習状況、実習態度の観察 ノートや記録簿の記述 学期に一度、栽培技術の習得状況について確認	学習状況、実習態度の観察 ノートや記録簿の記述 学期末にペーパーテストによる知識・理解の確認

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	野菜の生育と生理、果菜類の栽培	(座) 野菜の生育と生理 (実) 果菜類の栽培管理についての知識と技術	○	○	○	○	a: 野菜(果菜類)の栽培について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 野菜(果菜類)の栽培について、課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、判断・表現する姿が見られる。 c: 野菜(果菜類)の栽培について、基礎的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 野菜(果菜類)の栽培について、基礎的・基本的な知識を身に付けている。 野菜の生育と生理について、基礎的・基本的な知識を身につけている。	ノート レポート 授業観察
2学期	栽培環境、葉根菜類の栽培	(座) 栽培環境 (実) 葉根菜類の栽培管理についての知識と技術、販売実習	○	○	○	○	a: 野菜(葉根菜類)の栽培について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 野菜(葉根菜類)の栽培について、課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、判断・表現する姿が見られる。 c: 野菜(葉根菜類)の栽培について、基礎的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 野菜(葉根菜類)の栽培について、基礎的・基本的な知識を身に付けている。 野菜の栽培環境について、基礎的・基本的な知識を身につけている。	ノート レポート 授業観察

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

3 学期	野菜の流通と鮮度保持、土づくり	(座) 野菜の流通と鮮度保持 (実) 育苗用土と本畑の土作り	○	○	○	○ ○	a: 野菜栽培の土壌について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 野菜栽培の土壌について、課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、判断・表現する姿が見られる。 c: 野菜栽培の土壌について、基礎的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 野菜栽培の土壌について、基礎的・基本的な知識を身に付けている。 野菜の流通と鮮度保持で、基礎的・基本的な知識を身につけている。	ノート レポート 授業観察 テスト
---------	-----------------	---------------------------------------	---	---	---	------------	---	----------------------------

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:技能 d:知識・理解
・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

学校番号	3001
------	------

1 枚のうちの 1

令和4年度「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
農業	キャリアアップ	2	2	日本語ワープロ検定試験模擬問題集

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロ文章作成の能力・技能を身につける。 ・生物分類技術検定、農業技術検定に合格できるための知識を身につける。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロ検定（日本情報処理検定協会）資格取得にむけての実技練習を行う。 ・生物分類技術検定、農業技術検定の資格取得を目指して学習を行う。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4	受験級決定の速度テスト 農業技術検定・生物分類技術検定について	3級の模擬試験で入力速度をテスト、めざす受験級の決定 検定試験の意義、試験までの学習のすすめ方について	入力文字数で評価（入力数伸び率による） 取組みの姿勢と出席状況	正しい姿勢で入力できているか 真面目に授業にのぞんでいるか より上の受験級をめざし努力できているか
5	速度を中心とした練習	初歩の生徒には基本的な文字の入力とタッチタイピングの指導	観点別評価	ビジネス文書の構成をよく理解し作成できているか 生物分類技術検定・農業技術検定の資格取得ができているか、
6	過去問題からの演習	ワードの基本的な操作についての指導 農業および生物分類に関する基本的知識についての整理、確認		
7	文書を中心とした練習 検定試験の模擬試験	ビジネス文書の構成（前付け 時候の挨拶 付記）についての指導 検定試験に備えた実践学習	ワープロ検定の採点基準の採用	
8			取組みの姿勢と出席状況 観点別評価	
9	文書を中心とした練習	ビジネス文書の構成（前付け 時	授業態度	真面目に授業にのぞんでいるか

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

1 0	過去問題からの演習	候の挨拶 付記) についての指導 第1回検定結果をふまえての受験級位の確認	提出物	板書をノートに書き写しているか
1 1			定期考査	農業技術検定の資格取得ができているか
1 2	検定試験の模擬試験	検定試験に備えた実践学習	観点別評価	
1	文書を中心とした練習			
2	まとめ学習			
3				

学校番号	3001
------	------

令和4年度 環境緑化科

教科	農業	科目	総合実習	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	造園「造園計画」「環境緑化材料」「造園技術」 (文部科学省)						
副教材等	「見たい、知りたい！日本庭園」(三笠書房)「葉っぱで見分ける樹木ハンドブック」(池田書店)						

1 担当者からのメッセージ

造園や環境分野を中心に基礎から応用まで体験的な学習を行い、総合的な知識と技術を学ぶ科目です。造園や環境分野の経営と管理について理解を深めて、作業などを通して経営力や管理能力を陶冶して、造園や環境分野において改善を図る実践的に活躍できる能力を身に付けましょう。

2 学習の到達目標

- ・造園や環境分野に関する総合的な知識と技術を習得する。
- ・設計と管理についての理解を深め、計画力や管理能力などを身に付ける。
- ・造園や環境分野の改善を図る実践的な能力と態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 関心・意欲・態度	b: 思考・判断・表現	c: 技能	d: 知識・技能
観 点 の 趣 旨	造園や環境分野における専門技術と経営管理に関心を持ち、その改善・向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	造園や環境分野における専門技術と経営管理に関する諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、課題を適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	造園や環境分野に関する基本的な技術を身に付け、生産や経営管理を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	造園や環境分野における基礎的・基本的な知識を身に付け、生産や経営管理における知識や技術の体系を理解している。
評 価 方 法	学習状況の観察 実習記録簿 レポート 自己評価等	学習状況の観察 実習記録簿 レポート 農業クラブ発表会 自己評価等	学習状況の観察 実習記録簿 農業クラブ級位検定 自己評価等	学習状況の観察 実習記録簿 レポート 自己評価等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりにごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	専門技術 総合実習	造園や環境の知識と 技術	○		○		a: 時季に応じた専門技術と経営管理に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 時季に応じた専門技術と経営管理における諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 時季に応じた専門技術と経営管理について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 時季に応じた専門技術と経営管理について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	学習状況の 観察 実習記録簿 レポート 農業クラブ 発表会 自己評価
	経営管理 総合実習	経営管理の知識と技 術	○	○				
	学校農業 クラブ活動	各種発表会への参加	○	○				
	見学実習	京都等の名園見学	○	○		○		
2学期	専門技術 総合実習	造園や環境の知識と 技術	○		○		a: 時季に応じた専門技術と経営管理に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 時季に応じた専門技術と経営管理における諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め判断・表現している。 c: 時季に応じた専門技術と経営管理について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 時季に応じた専門技術と経営管理について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	学習状況の 観察 実習記録簿 レポート 農業クラブ 級位検定 自己評価
	経営管理 総合実習	経営管理の知識と技 術	○	○				
	学校農業 クラブ活動	級位検定			○	○		
	見学実習	京都等の名園見学	○	○		○		
3学期	専門技術 総合実習	造園や環境の知識と 技術	○		○		a: 時季に応じた専門技術と経営管理に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 時季に応じた専門技術と経営管理における諸課題を発見し、その改善を図るために思考を深め、判断・表現している。 c: 時季に応じた専門技術と経営管理について基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 時季に応じた専門技術と経営管理について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。	学習状況の 観察 実習記録簿 レポート 自己評価
	経営管理 総合実習	経営管理の知識と技 術	○	○				
	学校農業 クラブ活動	プロジェクト活動 のまとめ	○	○				

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

※表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 技能 d: 知識・理解

※原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

学校番号	3001
------	------

令和4年度 環境緑化科

教科	農業	科目	緑化技術	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

公園、街路樹、家の個人庭園などの普段生活している場面で目にする都市の緑化を授業を通して注目してみましょう。環境緑化のための植物育成や造園空間に使用する材料について必要な知識と技術を学びましょう。

2 学習の到達目標

環境緑化のための植物の育成や造園の構成に使用する材料について必要な知識と技術を習得させ、環境緑化の特性を理解させるとともに、材料を適切に取り扱い、活用する能力と態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	環境緑化の現状や今日的な課題などについて関心を持っている。環境緑化材料の栽培、加工や利用を体験することにより、環境緑化に対する意欲をもっている。	造園を中心として環境創造と素材生産分野における自らの職業生活について判断・表現している。	造園空間の周囲の状況や地域環境の状況に応じた種類や特性、植物材料に関する技能を習得している。	多様化する材料について、体験的、継続的な観察、調査、記録などの学習を通して、成長、変化する植物を扱う造園の特質を理解している。
評 価 方 法	学習状況の観察 実習ノート レポート 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 実習ノート レポート 定期考査の結果 自己評価等	学習状況の観察 実習ノート 自己評価等	学習状況の観察 実習ノート レポート 定期考査の結果 自己評価等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	造園樹木	造園樹木とは何か	○			○	a: 実習庭園や公園などの具体的な事例を通して関心を持っている。 b: 主な植物材料の形態的な特性や生理・生態的な特性を判断・表現している。 c: 造園空間の目的や地域に応じた植物材料の取り扱いと育成に関する知識と技能を習得している。 d: 観察、実習を通して造園空間を構成するために必要な植物材料の特性を理解している。	学習状況
		造園樹木の種類について	○	○		○		実習ノート
		造園樹木の特徴	○		○	○		レポート
		造園樹木の寸法規格	○		○			定期考査の結果
		育成・繁殖方法について	○			○		自己評価
		苗木の育成管理など	○		○			
2 学期	地被植物 (つる性植物) (コケ類・シダ類)	地被植物の種類	○	○		○	a: 実習庭園や公園などの具体的な事例を通して関心を持っている。 b: 地被植物の特性を生かした材料選定が重要であることを判断・表現している。 c: 造園空間の目的や地域環境に応じた地被植物の選択、取り扱い、育成及び繁殖に関する知識と技能を習得している。 d: 主な地被植物の形態的な特徴や生理・生態的な特徴を理解している。	学習状況
		地被植物の特性	○	○		○		実習ノート
		主な地被植物	○	○	○	○		レポート
							定期考査の結果	
							自己評価	

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

3 学期	花壇用草花	花壇と草花の役割	○			○	a:花壇用草花の種類・特性及び育成について関心を持っている。	学習状況
		花壇の利用	○	○	○		b:生活環境の改善や整備など人間の要求を満足させる空間を創出するために、周囲の環境や目的に応じ判断・表現している。	実習ノート
		花壇の種類	○			○	c:造園空間の目的や地球環境に応じた花壇用草花の選択、取り扱い、育成及び繁殖に関する知識と技能を習得している。	レポート
		室内空間の緑化	○		○		d:主な花壇用草花の形態的な特性や生理・生態的な特性を理解している。	定期考査の結果 自己評価

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
 c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3001
------	------

令和4年度 環境緑化科

教科	農業	科目	課題研究	単位数	3単位	年次	2年次
使用教科書	造園技術（文部科学省）						
副教材等	造園施工必携（日本造園組合連合会）						

1 担当者からのメッセージ

造園に関するより高度な技術や知識を身に着けるためのステップとして、造園技能検定の取得を自らの課題として主体的に取り組んでいきましょう。学習形態は技術を学ぶ実習と、知識の学習の座学からなります。本科目では初級技術である3級技能検定合格をめざし、2学期以降は3年次に受験できる中級技術の2級造園技能士の取得へのステップアップをめざします。

2 学習の到達目標

- ・国家資格である造園技能検定の学習を通じて、造園に関する基礎的・基本的な技術・知識を習得する。
- ・資格習得を通じて、課題や問題に自主的・主体的に取り組みこれを解決しながら目標を達成する意欲・態度を身に着ける。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・技能
観 点 の 趣 旨	初級造園技術者として造園現場に必要な造園に関する技術・知識を持って造園に主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	初級造園技術者として造園現場に必要な造園に関する材料・技術を基に、施工作業に携わるものとして適切に判断し、行動できる創造的な能力を身に付けている。	初級造園技術者として造園現場に必要な造園に関する材料・技術を身に付け、与えられた課題の解決にむけ諸作業を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	初級造園技術者として造園現場に必要な造園に関する材料・技術・法規などの分野の体系的な基礎知識を身に着ける。
評 価 方 法	定期試験 実習活動の観察 (態度、技術習得) 実習のまとめノート 自己評価等	定期試験 実習活動の観察 (態度、技術習得) 実習のまとめノート 自己評価等	定期試験 実習活動の観察 (態度、技術習得) 実習のまとめノート 自己評価等	定期試験 実習活動の観察 (態度、技術習得) 実習のまとめノート 自己評価等
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1 学期	初級造園基礎知識（座学） 初級造園施工技術（実習）	庭園史・各種造園材料・ 施工技術・管理技術 関連法規・安全衛生・ 作業地造成 地割・位置出し 竹垣施工 敷石施工 縁石施工 植栽施工	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a: 造園について興味・関心を持ち、諸問題を解決するような態度を身に付けている。 b: 造園全般に関する体系的な知識を持ち、現場で適切に対応する姿が見られる。 c: 与えられた課題を解決するために必要な情報を収集し、有用な情報を選択し、活用している。 d: 造園施工に関する基礎基本的技術を身につけ、状況を判断して課題を完成できる技能と態度が身につけている。	定期試験 実習活動の観察 （態度、技術習得） 実習のまとめノート 自己評価等
2 学期	中級造園基礎知識（座学） 中級造園基礎技術（実習）	庭園史・各種造園材料・ 施工技術・管理技術 関連法規・安全衛生・ 作業地造成 地割・位置出し 竹垣施工 敷石施工 縁石施工 植栽施工	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a: 造園について興味・関心を持ち、諸問題を解決するような態度を身に付けている。 b: 造園に関する体系的な中程度の知識を持ち、現場で適切に対応する姿が見られる。 c: 与えられた課題を解決するために必要な中程度の情報を収集し、有用な情報を選択し、活用している。 d: 造園施工に関する中程度の技術を身につけ、状況を判断して課題を完成できる技能と態度が身につけている。	定期試験 実習活動の観察 （態度、技術習得） 実習のまとめノート 自己評価等
3 学期	中級造園基礎知識（座学） 中級造園基礎技術（実習）	庭園史・各種造園材料・ 施工技術・管理技術 関連法規・安全衛生・ 作業地造成 地割・位置出し 竹垣施工 敷石施工 縁石施工 植栽施工	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	a: 造園について興味・関心を持ち、諸問題を解決するような態度を身に付けている。 b: 造園に関する体系的な中程度の知識を持ち、現場で適切に対応する姿が見られる。 c: 与えられた課題を解決するために必要な中程度の情報を収集し、有用な情報を選択し、活用している。 d: 造園施工に関する中程度の技術を身につけ、状況を判断して課題を完成できる技能と態度が身につけている。	定期試験 実習活動の観察 （態度、技術習得） 実習のまとめノート 自己評価等

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

※表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c: 技能 d: 知識・理解

※原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

学校番号	3001
------	------

令和4年度 環境緑化科

教科	農業	科目	農業情報処理	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	「農業情報処理」 (実教出版)						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

情報、および情報機器について知ることが現代、未来に於いて効率的に、また安全に生活するために必須の事柄です。

2 学習の到達目標

- ・ 情報機器や機器の扱い、情報モラルや情報社会に対しての興味・関心を高める。
- ・ 情報に関する基礎的な知識と技術を習得する。
- ・ 情報機器を用いた問題解決能力を伸ばし、農業の各分野で活用する能力と態度を育てる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	情報機器やその正しい使用方法に興味・関心を持ち、課題の探究に意欲的に取り組むとともに、その課題を適切に情報機器を用いて合理的に解決しようとする実践的な態度を身に付けている。	情報社会に於いての適切なリテラシーやモラル、セキュリティに関する知識と問題意識を持ち、情報社会でトラブルに合わないよう適切な知識を持っている。また、その知識を用いて、行動することができる。プレゼンテーションなどの技量を身に付けている。	ワープロソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションを用いて、課題の研究に活かすことができる。また、課題に対して取り組んだ結果をプレゼンテーションソフトなどを用いて適切に表現できる。	情報社会のしくみを理解し、ウェブやメールシステムの仕組み、セキュリティに関する知識を身につけている。課題の解決に必要なソフトウェアについての知識を身につけている。
評 価 方 法	学習状況の観察 ワークシートの記述 タイピング速度の記録 実習記録表 レポート、発表 自己評価 等	学習状況の観察 タイピング速度の記録 実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価 等	学習状況の観察 タイピング速度の記録 実習記録表 レポート、発表 定期考査、実技テストの結果 自己評価・相互評価 等	学習状況の観察 タイピングソフトの記録 実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果等

学設_2年キャリアアップ_R4 シラバス

上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	情報社会を学ぶ 情報機器やソフトウェアを学ぶ	○情報の意味、情報社会について学ぶ。 情報リテラシーを学ぶ。 ○ワープロなどのソフトや機器の扱いを学ぶ	○ ○			○	a: 情報や情報機器について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 情報の学び方、扱いについて、課題を見出し、その解決をめざして思考を深め、判断・表現する姿が見られる。 c: 情報の学び方、リテラシーについて、基礎的な技術を身に付け、ソフトの使い方等の技術を活用している。 d: 情報機器の操作、著作権や個人のプライバシーの知識を身に付けている。	授業観察 ノート レポート 定期考査
2学期	1学期で学んだ知識をもとにセキュリティなど対策を学ぶ。	○ネットワークシステムやセキュリティについて発展的に学ぶ。 ○ワープロソフトなどの使い方をさらに発展させる。 ○表計算ソフトを学ぶ。	○ ○ ○	○ ○		○	a: システムに関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 情報システムやセキュリティに課題を見出し、その解決をめざして思考を深め、判断・表現する姿が見られる。 c: 情報システムや関連のソフトに基礎的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d 情報システムやソフトについて理解し、基礎的な知識を身に付けている。	授業観察 ノート レポート 定期考査
3学期	自分たちの生活に発展させた形で学ぶ。	○情報の知識やワープロソフト、表計算ソフトを用いて学んだこと、自分の選んだ情報に関するテーマを深める。 ○テーマに沿って深めた知識をプレゼンテーションソフトを用いて発表する。	○ ○		○	○	a: 総合的な情報処理について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 総合的な情報処理について、課題を見出し、その解決をめざして思考を深め、判断・表現する姿が見られる。 c: 自分たちを取り巻く情報の諸課題について検討する基礎的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 総合的な情報処理方法を理解し、基礎的な知識を身に付けている。	授業観察 ノート レポート 定期考査

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
 c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3001
------	------

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

府立 園芸 高等学校 全日制の課程 環境緑化科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名	副教材名等
農 業	環境計画	3	2		造園計画

到達目標	公園・庭園等の計画・設計の技術および知識を習得させ、都市や住居等の空間における種々の環境・景観を緑地環境保全の観点から向上・改善する能力と態度を育成する。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な地域環境・生活環境問題への関心と取り組みを重視する。 ・演習・調査等の実践的な活動を主体とした授業展開とする。 ・良いデザインの庭園・公園を創造するためにハンディキャプト・パーソンを含んだ人々のヒューマンスケールの確認と思いやりのある計画者を育てる。 ・緑の効用を生かし、人々に寄与する快適空間の創造と、その態度や意欲を育てる。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4 5	造園の様式	庭園史 造園材料 庭園の現地調査	・試験 ・現地調査レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・日本および海外の各時代における庭園様式を理解しているか。 ・各種造園材料の特性、用途について理解しているか。 ・現地調査において、地域環境、設計者の意図、機能性等についての考察が出来ているか。
6 7	造園のデザイン	種々の修景手法 ・個人庭園の構成	・練習課題 ・作品課題	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた条件を踏まえて個々の発想で設計図面に表現できるか。
8		現場・現地見学 復習と次期学習への課題	・見学レポート ・復習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を工夫して収集し、まとめられているか。 ・1学期の学習内容が定着しているか
9 10	都市環境	都市開発と環境保全 都市公園関係法法規 公園関連施設 都市公園の現地調査	・試験 ・現地調査レポート	<ul style="list-style-type: none"> ・都市緑地の意義と機能について理解しているか。 ・都市公園関係法法規の内容と、指針を理解しているか。 ・公園関連施設の特性、用途について理解しているか。 ・現地調査において、地域環境、設計者の意図、機能性等についての考察が出来ているか。
11 12	都市公園のデザイン	種々の修景手法 ・都市公園の構成	・練習課題 ・作品課題	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた条件を踏まえて個々の発想で設計図面に表現できるか。

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

1	計画・設計演習	個人庭園の設計	・作品図面 ・設計要旨	・設計者の意図が設計図面に表現されているか。
2		都市公園の設計		
3		・平面図、立面図、透視図の作製		

学校整理番号	3001
--------	------

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

府立 園芸 高等学校 全日制の課程 環境緑化科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名	副教材名等
農業	緑化技術	3	2	未定	造園施工必携

到達目標	公園、街路樹、個人庭園に関する造園材料や緑化に関わる施工や管理に関する基礎的な技術や知識を身につける。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> 植物の育成や造園の構成に必要な材料の知識を身につける。 庭園の構成物の施工を学ぶ。とりわけ緑化に関連する部分を学ぶ。 管理に必要な移植などの技術、道具の扱いについて学ぶ。 観点別評価を行う。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4	造園樹木について	造園樹木とは	造園樹木の基礎、植物について理解したか、レポートにより評価	<ul style="list-style-type: none"> 授業の内容が理解できている。 植物の特性を理解できている。 道具が正しく使用できる。 寸法などの規格について理解できている。 レポートをしっかりと書くことができる。 安全な作業についての知識を習得できている。 習得した安全に関する知識を実習で活かしている。 片付けがしっかりとこなされている。 授業に対する意欲・態度が良好である。 効率よく作業を行うことができる。
5		造園樹木の種類		
6		造園樹木の特徴		
7		樹木材料の寸法規格		
8		地被植物について 地被植物の特性		
9	緑化施工	緑化施工に必要な道具、知識	緑化施工の道具を正しく扱えるか。安全に配慮できること、業務記録としてのレポート作成などで評価	
10		遣方づくり		
11		木材工事		
12		石工事		
1	植栽工	植栽法基礎	基礎から実際の施工へのステップアップ	
2		花壇の施工		

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

3		法面緑化	を行う。学んだことを生かしているかどうか実践により評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業手順を正しく行うことができる。 ・ 作業の意味を理解している。
---	--	------	-----------------------------	--

学校整理番号	3001
--------	------

2枚のうちの1

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

府立 園芸 高等学校 全日制の課程 環境緑化科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名	副教材名等
農 業	造園製図(自立)	4	2		

到達目標	造園計画や造園施工等に関連する種々の図面の作成・読図の技術を習得させるとともに、造園に関する様々なデザインやプレゼンテーション等の表現能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<p>以下の内容を練習課題および作品課題の作成を演習・実習形式で実施する。共通的基本的な知識・技術の習得を踏まえながらも、個々のアイデアや発想を生かし、生徒が主体的に創造的に作品作成に取り組めるよう留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造園製図に関する基礎的・基本的な技術を習得させる。 ・農業情報処理・造園計画・施工・造園材料等の他科目の学習との連携をはかる。 ・造園に関する各種図面の読図及び作図技術を習得させる。 ・庭園や公園等の各種造園空間の表現方法としての図面を作製する意義を踏まえ、作成技術およびデザイン力、発表技術等を育成する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4	1. 造園空間の図面表現 ①平面表現 ②立面表現	<ul style="list-style-type: none"> ・石組み表現、園路表現 ・各種庭園添景物の表現 ・空間配置とデザイン ・光線と陰影 ・着色技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチ課題 ・トレース課題 ・読図課題 ・練習課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・図面の平面的表現都立面的表現の関係について理解し、平面図から立面図への作図ができるか。 ・樹木・石製品等の立体表現（立面図）ができるか。 ・樹木等をその大きさ・形状を考慮して、見栄えよく配置できるか。 ・光線の向き・強さを踏まえた立体表現ができるか。 ・図面全体のバランスを考慮し適切な選色・濃度で着色（色鉛筆等）を適正に行えるか。
5				
6				

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

7	2. 住宅アプローチ図（平面・立面）	以前の単元技術のまとめ	・作図課題	植栽・園路・景石等の平面表現
9 10	3. 各種造園図面	・造園図書・各種平面配置図・施設図・系統図・断面図・構造図・施工図 各種施工図面・詳細図の作成 ・鳥居型支柱施工図 ・藤棚施工図 ・児童公園配置図・植栽図	・練習課題 ・読図演習 ・読図課題 ・作図課題	・造園に関する種々の図面の主旨を踏まえ、図面から様々な情報を正確・適切に読みとれるか。 施工に必要な情報（材質、寸法、工法、技術）を踏まえて適切な表現がなされているか。JIS 規格に適合した作図であるか。・作図のテーマを課題から読みとり、縮尺・レイアウト等の作図構想が適切になされているか
11 12	4. 個人住宅庭園作図	・個人住宅庭園各部の設計・作図 （玄関部・接道部・主庭の設計、作図）	・読図 ・構想図	・住宅の現況を踏まえ、ふさわしい構想を立てているか。構想を踏まえた地割、園路、植栽等の計画がなされているか。
1 2 3	プレゼンテーション	・プレゼンテーション資料の作成	・作品作成 ・作品主旨の発表	・設計のコンセプトが図面に具体化されているか

学校整理番号	3001
2枚のうちの1	

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

府立 園芸 高等学校 全日制の課程 環境緑化科

教科	科目	単位数	指導学年	教材名	副教材名等
農 業	造園製図	2	2		

到達目標	造園計画や造園施工等に関連する種々の図面の作成・読図の技術を習得させるとともに、造園に関する様々なデザインやプレゼンテーション等の表現能力と態度を育てる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	<p>以下の内容を練習課題および作品課題の作成を演習・実習形式で実施する。共通の基礎的な知識・技術の習得を踏まえながらも、個々のアイデアや発想を生かし、生徒が主体的に創造的に作品作成に取り組めるよう留意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造園製図に関する基礎的・基本的な技術を習得させる。 ・農業情報処理・造園計画・施工・造園材料等の他科目の学習との連携をはかる。 ・造園に関する各種図面の読図及び作図技術を習得させる。 ・庭園や公園等の各種造園空間の表現方法としての図面を作製する意義を踏まえ、作成技術およびデザイン・表現技術等を育成する。また、習得評価を行う。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4	1. 造園空間の図面表現 ①平面表現 ②立面表現	<ul style="list-style-type: none"> ・石組み表現、園路表現 ・各種庭園添景物の表現 ・空間配置とデザイン ・光線と陰影 ・着色技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケッチ課題 ・トレース課題 ・読図課題 ・練習課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・図面の平面的表現都立面的表現の関係について理解し、平面図から立面図への作図ができるか。 ・樹木・石製品等の立体表現（立面図）ができるか。 ・樹木等をその大きさ・形状を考慮して、見栄えよく配置できるか。 ・光線の向き・強さを踏まえた立体表現ができるか。 ・図面全体のバランスを考慮し適切な選色・濃度で着色（色鉛筆等）を適正に行えるか。
5				
6				

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

7	2. 住宅アプローチ図（平面・立面）	以前の単元技術のまとめ	・作図課題	植栽・園路・景石等の平面表現
9 10	3. 各種造園図面	・造園図書・各種平面配置図・施設図・系統図・断面図・構造図・施工図 各種施工図面・詳細図の作成 ・鳥居型支柱施工図 ・藤棚施工図 ・児童公園配置図・植栽図	・練習課題 ・読図演習 ・読図課題 ・作図課題	・造園に関する種々の図面の主旨を踏まえ、図面から様々な情報を正確・適切に読みとれるか。 施工に必要な情報（材質、寸法、工法、技術）を踏まえて適切な表現がなされているか。JIS 規格に適合した作図であるか。・作図のテーマを課題から読みとり、縮尺・レイアウト等の作図構想が適切になされているか
11 12	4. 個人住宅庭園作図	・個人住宅庭園各部の設計・作図（玄関部・接道部・主庭の設計、作図）	・読図 ・構想図	・住宅の現況を踏まえ、ふさわしい構想を立てているか。構想を踏まえた地割、園路、植栽等の計画がなされているか。
1 2 3	プレゼンテーション	・プレゼンテーション資料の作成	・作品作成 ・作品主旨の発表	・設計のコンセプトが図面に具体化されているか

学校番号	3001
------	------

令和4年度 バイオサイエンス科

教科	農業	科目	総合実習	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

<p>春期休業・夏期休業や放課後等の時間割外で集中的に学習する科目です。専攻別の実験・実習など実際の、体験的な学習を通して総合的な技術と知識を習得します。</p>

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・栽培・微生物・バイオテクノロジー・食品成分分析・食品加工などの農業の各分野に関する体験的な学習や学校農業クラブの自主的な研究活動などを通して、総合的な知識と技術を習得する。 ・科学的思考力と問題解決能力を伸ばし、農業の各分野で活用する能力と態度を育てる。

3 学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	栽培・微生物・バイオテクノロジー・食品成分分析・食品加工などについて興味関心を持ち、各分野の実験実習に意欲的に取り組み、課題を解決する実践的な態度を身に付けている。	栽培・微生物・バイオテクノロジー・食品成分分析・食品加工などの各分野の課題を発見し、その解決のために知識と技術を適切に活用し、創意工夫する能力を身に付けている。	栽培・微生物・バイオテクノロジー・食品成分分析・食品加工などの各分野の実践的・総合的な技術を身に付け、その技術を活用している。	栽培・微生物・バイオテクノロジー・食品成分分析・食品加工などの各分野の総合的な知識を身に付けている。

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

評価方法	学習状況の観察 プリント・ワークシートの記述 実習記録帳 レポート 発表 自己評価	学習状況の観察 プリント・ワークシートの記述 実習記録帳 レポート 発表 自己評価	学習状況の観察 プリント・ワークシートの記述 実習記録帳 レポート 発表 実技テストの結果 自己評価	学習状況の観察 プリント・ワークシートの記述 実習記録帳 レポート 発表 農業鑑定競技の結果
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
春期休業中	専門技術総合実習	○各専攻別の基礎的な実験・実習 農場での栽培管理 微生物培養実験 食品成分分析実験 食品製造実習	○	○	○	○	a: 各専攻別の基礎的な実験・実習について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 各専攻別の基礎的な実験・実習について課題を発見し、その解決のために思考を深め、判断表現する姿勢が見られる。 c: 各専攻別の基礎的な実験・実習について基礎的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: 各専攻別の基礎的な実験・実習について、その操作や方法・原理を理解し、基礎的な知識を身に付けている。	授業観察 プリント 実習記録帳 レポート

学校番号	3001
------	------

令和4年度 バイオサイエンス科

教科	農業	科目	課題研究	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1 担当者からのメッセージ (学習方法等)

<p>食品製造、食品栄養、バイオ生産、農産加工の4班に分かれ活動します。 さまざまな実験実習を通し知識・技術を身につけてください。 3年生の課題研究へもつながる大切な授業です。</p>
--

2 学習の到達目標

<p>計画立案、情報収集、実技習得に取り組んだ領域を踏まえ、各自が卒業研究を実施することを通じ、専門の領域について経験的、主体的に理解を深める。生徒は専門的指導のできる10名の担当教員に分かれて付き2年次から卒業まで継続して、個別的な指導を受ける。 観点別評価を行う。</p>

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観 点 の 趣 旨	自分の興味・関心に 応じて、自らテーマ を設定し、自主的に 調査・研究および報 告をする心構えや態 度を身につけてい る。	テーマに沿ってアン ケートや本、インタ ーネットからの情報 収集をする中で多様 な角度から問題を掘 り下げ主体的に分 析・判断してまとめ、 その成果を表現する 能力を身につけてい る。	調査方法や情報収集 の方法、また、論文の 書き方や発表の技術 を身につけ、自分が まとめたテーマに基 づいて、他の人に伝 えるための技能を適 切に活用している。	自ら設定した課題 について、新たな知 識を主体的につか み取り、理解し、思 考し、判断して、問 題解決の能力を身 につけている。

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・課題提出の内容 ・ノートの提出と取り組み状況 ・目標と現状による自己評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・質問に対する発言内容 ・論文の提出と内容 ・発表による評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・論文の提出と内容 ・生徒による相互評価 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への参加状況 ・質問に対する発言内容 ・論文の提出と内容
<p>上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。</p>				

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期・二学期	プロジェクト学習について	<ul style="list-style-type: none"> *課題の設定 *年次計画の作成 *調査研究 *データのまとめ *結果および観察 	○	○	○	○	<p>a: 課題研究について理解し年次計画に沿って、意欲的かつ熱心に調査研究に取り組んでいる</p> <p>b: 研究していく中で問題を掘り下げ主体的に分析、判断し解決を目指し、その結果をデータとして表現する力がある</p> <p>c: 実験実習の手順や方法が身に付いており、活動の記録を的確に行っている。</p> <p>d: 課題研究に必要な情報を取り入れ、総合的な知識と問題解決の能力を身につけている。</p>	<p>実習態度</p> <p>研究内容</p> <p>ノート</p>

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

三学期	レポート(報告書)作成	<ul style="list-style-type: none"> データ整理や事業の中間まとめ 研究や事業の発表活動 課題レポート(中間報告)の作成と提出 	○	○	○	○	<p>a: 領域活動への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業時間内における学習活動の積極さ 授業時間以外での主体的な取り組み <p>b: 研究していく中で問題を掘り下げ主体的に分析、判断し解決を目指し、その結果をデータとして表現する力がある</p> <p>c: レポート(報告書)作成に対する積極的取り組み レポート(報告書)作成に関する指導についての応答の程度</p> <p>d: 課題研究に必要な情報を取り入れ、総合的な知識と問題解決の能力を身につけている。</p>	<p>学習態度</p> <p>研究レポートの完成度</p> <p>発表の評価</p>
-----	-------------	--	---	---	---	---	---	--

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 年間指導計画(例)作成上の留意点

- 原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○を付けている。

学校番号	3001
------	------

令和4年度 バイオサイエンス科

教科	農業	科目	農業情報処理	単位数	2単位	年次	2年次
使用教科書	農業情報処理 (実教出版)						
副教科書							

9. 担当者からのメッセージ(学習方法等)

社会における情報化の進展により、ある程度の情報処理技術が進学または就職する上で必要となってきます。本科目では情報の意義や役割の理解、情報処理に関する知識と技術を身につけ、農業の各分野で情報及び情報手段を活用する能力と態度を習得しましょう。

10. 学習の到達目標

- ・コンピュータ活用の基礎を習得する。
- ・ソフトウェアの利用、特にワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト及びインターネットの活用についての基礎的な知識・技能を習得する。

11. 学習評価 (評価規準と評価方法)

観点	a：関心・意欲・態度	b：思考・判断・表現	c：技能	d：知識・理解
観 点 の 趣 旨	パソコンや各ソフトウェアの操作に関心を持ち、課題に対して改善・向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	各ソフトウェアの基礎的・基本的な知識を基に適切に判断し、わかりやすい資料やスライドを表現する創造的な能力を身に付けている。	パソコンおよび各ソフトウェアに関する基礎的・基本的な操作技術を身に付け、適切に活用している。	パソコンおよび各ソフトウェアの操作、情報倫理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評 価 方 法	学習状況の観察 実技課題	学習状況の観察 実技テスト 実技課題	学習状況の観察 実技テスト 実技課題	学習方法の観察 定期考査 実技テスト 実技課題
上に示す観点に基づいて、学習のまとめりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。				

12. 学習の活動

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(教材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	コンピュータによる情報の活用 ③ワードプロセッサの利用	○コンピュータの基本操作・知識 起動・終了、情報倫理 ○ワードの基本操作 文字の入力、削除、複製、挿入 ファイルの保存 罫線、フォント、網掛け 表の作成および編集 文書作成 図の挿入 ポスター作成	○			◎	a: コンピュータの操作に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 文字や文章、図形や表の編集を行い、読み手にわかりやすい文書やポスターの作成をしている。 c: ワードの操作において基本的な技術を身に付け、その技術を活用している。 d: ワード操作の基本的知識、文書作成のルールを理解している。	授業観察 定期考査 実技課題
2学期	④表計算ソフトウェアの利用	○エクセルを用いた計算(四則計算)、関数の利用(合計、平均、最大、最小)、 ○表およびグラフの作成	○		◎	○	a: エクセルを用いた表計算やグラフの作成に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: 目的の計算を行い、表・グラフを作成するためにはどのような操作が必要になるかを考え、適切な方法で実行している c: エクセルにおける基礎的な操作を身に付けている d: エクセル操作の基本的知識、文書作成のルールを理解している。	授業観察 実技テスト 実技課題
3学期	⑦プレゼンテーションソフトウェアの利用	○パワーポイントを用いたスライドの作成(テキストボックス、図の挿入・編集、アニメーション) ○発表原稿を基に発表スライドの作成	○		◎	○	a: パワーポイントを用いたスライドの作成に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b: どのようなスライドを作成すればより効果的に伝わるかを考え、文字の大きさ、図、グラフ、配置を工夫し、スライドを作成している。 c: パワーポイントにおける基礎的な操作を身に付けている d: パワーポイント操作の基本的知識、わかりやすいスライド作成のルールを理解している。	授業観察 実技テスト 実技課題

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度
c:技能

b:思考・判断・表現
d:知識・理解

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

※ 年間指導計画（例）作成上の留意点

- ・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。

学校番号	3001
------	------

1 枚のうちの 1

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
農業	バイオサイエンス基礎 (実験)	2	3 の内の 2	微生物利用

到達目標 ※	微生物の特性について、基礎的な実験を通してその知識や技術を習得する。
到達目標に向けて の具体的な取組 【指導上の留意点】	ヨーグルトの製造、乳酸菌数の測定、大腸菌検査、キノコの培養、香辛料の抗菌力試験、 およびアルコール発酵実験を行う。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
---	--------	------	------	---------

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

4月	ヨーグルトについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーグルトの製造 ・製品検査・pH、糖度、酸度の計算等 	観点別評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・製品検査、特に酸度の計算ができるか。 ・希釈操作ができるか。
5月	ヨーグルト中の	<ul style="list-style-type: none"> ・乳酸菌数の測定 		
6月	乳酸菌数の測定	<ul style="list-style-type: none"> ・乳酸菌数の計算・乳酸菌 		
7月	大腸菌検査	<ul style="list-style-type: none"> 観察 ・検査の準備 	観点別評価を行う。 (1学期末にテスト)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳酸菌が観察できるか ・大腸菌のコロニーが識別できるか。
8月		<ul style="list-style-type: none"> ・ふき取り、及び培養 ・大腸菌有無の確認 		<ul style="list-style-type: none"> ・大腸菌検査の意義が理解できているか。
9月	キノコの培養			
10月		<ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモ培地の調製 ・子実体より組織の純粋分 		<ul style="list-style-type: none"> ・ジャガイモ培地が調製できるか。・無菌操作が
11月		<ul style="list-style-type: none"> 離 	観点別評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> できるか。・オガクズ培
12月	香辛料の抗菌力 酵素実験	<ul style="list-style-type: none"> ・オガクズ培地の調製 ・斜面培地より植え付け ・香辛料の抗菌力試験 	観点別評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 地の調製できるか。 ・抗菌力、及び阻止円が識別できるか。
1月				<ul style="list-style-type: none"> ・酵素の性質、アミラー
2月	アルコール発酵	<ul style="list-style-type: none"> ・アミラーゼの精製 ・アミラーゼの力価 	観点別評価を行う。 (2学期末にテスト)	<ul style="list-style-type: none"> ゼ力価について理解を深めたか・発酵の種類が理解できるか。
3月		<ul style="list-style-type: none"> ・複発酵について ・米麴による糖化 ・酵母によるアルコール発酵 ・アルコール定量 ・単発酵 ・果実の利用 	観点別評価を行う。 (学年末にテスト)	<ul style="list-style-type: none"> ・アルコールの定量ができるか。 ・蒸留装置が組み立てられるか。

※学習指導要領に示された教科の目標をふまえて設定すること。

別紙様式3-①の(1)に記した「学校設定科目」について、科目ごとに作成すること。

(別紙様式 3-②)

学校整理番号	3001
--------	------

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	副教材名等
農業	バイオサイエンス基礎 (座学)	2	3のうちの1	微生物利用

到達目標	バイオサイエンスの基礎領域とその背景を理解させ、科学的な知識を習得させる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意】	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の基礎的生理機構について理解させる。 ・バイオサイエンス領域の概要と関連産業における基礎技術を理解させる。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	・微生物史	☆微生物上の有名な学者についての理解	・出欠 ・ノート点 ・態度	・時間ごとの課題に取り組み提出できるか。 ・授業に相応しい姿勢で臨んでいるか。
5月	・培地	☆基本培地と人工培地について	・テスト点 ・とくに授業態度について基本観	・授業内容を正しく理解しているか。
6月	・微生物の保存と入手	☆保存機関とその理解	点別評価を行う。	・バイオサイエンス領域の全体像について理解しているか。
7月				
8月	・かび	☆形態、分類代表的な微生物	・出欠 ・ノート点	・ノートを2回提出できるか。
9月	・酵母		・態度 ・テスト点	・微生物の構造と機能について正しく理解しているか。
10月	・放線菌	☆最新の研究内容に触れる。 ビデオ学習		日常の何に役立っているか理解できているか。

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

11月	・バイオ関連産業における基礎技術	☆固定化生体触媒、微生物の改良、バイオマス	・出欠 ・ノート点 ・態度	・ノートを1回提出できるか。 ・授業に相応しい姿勢で臨んでいるか。
12月	・バイオ食品について	☆生活にかかわる発酵食品等のまとめ	・テスト点 ・とくに授業態度について基本観	・バイオ関連産業について理解しているか。 ・発酵食品を理解できているか
1月			点別評価を	

学校番号	3001
------	------

2枚のうち1

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
農業	フードサイエンス基礎 (実験)	2	3の内の2	食品化学

到達目標	食品製造に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工の原理を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる 食品成分の分析技術の向上と安全に留意した実験態度を育成する。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前の手洗いの励行、実習前後の作業台の洗浄、床の水切りなど衛生面を徹底指導し、実習の中で意識できる授業をおこなう。 ・材料の品種や特性の話から始め、実習を通して食品製造の原理と方法を学ばせ、実践力を育てることに留意する。 ・食品の定量分析を行うための繊細で確実な器具や機器の操作技術の修得をめざす。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	有機化学	分子模型で有機物の構造を学習する。	数種類の有機物を造らせ確認する。	有機化学の構造を学習できたか。
5月	水分の定量	小麦粉の中の水分量を乾燥法によって算出し、水分の役割について学習する。	実験操作および電子天秤の取り扱い。	水分の重量計算 レポートの完成度
6月		食品中のたんぱく質、アミノ酸の存在を定性実験にて確認する。	たんぱく質、アミノ酸の性質、知識を習得できたか。	反応実験の的確さ、 実験の結果、考察
7月	たんぱく質、アミノ酸についての定性実験			
8月	アミノ酸の定量実験	アミノ酸を試料として薄層クロマトグラフィーを行い、試料中のアミノ酸を定性・定量する。	滴定操作 実験結果	実験操作レポート 実験結果の判定
4月			出欠 (遅刻)	興味関心を持ち意欲的に実習に取り組んでいるか。
5月	(食品製造分野)		実習態度	製造方法や原価計算、感想などレポートを完成させているか。
6月	農産物の加工	イチゴジャム製造	レポート	製造技術を習得しているか。
7月	穀類の加工	パン (リーンパン) 製造	製品の完成度	食品に関する知識を習得しているか。
8月	果実類の加工		期末考査	

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

9月	糖質の定性	ブドウ糖、でんぷんを用いて	糖質の知識	実験操作、結果
10月		の呈色反応および比較を用	実験操作	レポート
11月	糖質の定量	いた性質や知識を深める。	反応観察度	実験操作
12月		ソモギー法を用いてブドウ	時間の正確さ	実験結果、考察
		糖の定量	滴定操作	レポート
		ジュースの中の糖分を定量	実験確認テスト	各ジュースと実験結果
		する。	(結果を記念祭で展	の正確さ
			示)	
9月	(食品製造分野)		出欠(遅刻)	興味関心を持ち意欲的
10月	農産物の加工	パン(リッチパン)製造	実習態度	に実習に取り組んでいる
11月	穀類の加工	リンゴジャム製造	レポート	るか。
12月	果実類の加工		製品の完成度	製造方法や原価計算, 感
			期末考査	想などレポートを完成
				させているか。
				製造技術を習得してい
				るか。
				食品に関する知識を習
				得しているか。
1月	灰分の測定と試料の調	ほうれん草の灰分を測定	実験器具の名称使	実験操作
2月	整	無機成分の分析の前処理	用法	実験結果
3月	食品中のリンの定量	モリブデン青比色法を用い	実験操作の正確さ	レポート
	ビタミンCの定量	てほうれん草に含まれるリン	無機質の知識	
		の定量をおこなう	光電比色計の使用	光電比色計の使用法の
		インドフェノール滴定法を用	法	テスト
		いてイチゴのビタミンC	計算方法の習得	計算結果
		の定量を行う。	滴定操作	レポート
			実験操作の正確さ	実験操作
				計算結果レポート
1月	(食品製造分野)	製麴	出欠(遅刻)	興味関心を持ち意欲的
2月	発酵食品の製造	みその仕込み	実習態度	に実習に取り組んでいる
3月	みその製造		ノート点	るか。
			学年末考査	製造方法や原価計算, 感
			観点別評価を行う	想などレポートを完成
				させているか。
				製造技術を習得してい
				るか。
				食品に関する知識を習
				得しているか。

学校番号	3001
------	------

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
農業	フードサイエンス基礎(座学)	2	3の内の1	食品化学

到達目標	フードサイエンスの基礎領域とその背景を理解させ、科学的な知識を習得させる。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意】	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の性質や機能を知り、日常の食生活に役立てる方法を学習する。 ・食品の消化吸収および代謝について学び、健全な身体の構成について学習する。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	1. 「フードサイエンス」について	<ul style="list-style-type: none"> ・「フード」とは何か ・「フード」と健康について ・食生活について 	ノート 学習態度 プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・「フードサイエンス」について興味関心が持てたか
5月	2. 糖質	<ul style="list-style-type: none"> ・糖質の種類と重要性 ・糖質の消化吸収と代謝 	ノート 学習態度 プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・糖質について興味関心が持てたか ・糖質の消化吸収と代謝について理解したか糖質について
6月	3. 脂質	<ul style="list-style-type: none"> ・脂質の種類と重要性 ・脂質の消化と吸収 	ノート 学習態度 プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・脂質について興味関心が持てたか ・脂質の消化吸収と代謝につ
7月				
8月	4. タンパク質	<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質の種類と重要性 ・タンパク質の消化と吸収 	ノート 学習態度 プリント	<ul style="list-style-type: none"> ・タンパク質について興味関心が持てたか ・タンパク質の消化吸収と代謝について理解したか。
9月				
10月	5. 微量栄養素の働き	<ul style="list-style-type: none"> ・ビタミンの種類と重要性 ・無機質の種類と整理作用 	ノート 学習態度 プリント 定期考査	ビタミンについて興味・関心が持てましたか。 無機質の整理作用に興味・関心が持てましたか。
11月				
12月				
1月	6. 食中毒について	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒の種類・発生状況について学ぶ。 	ノート 学習態度	<ul style="list-style-type: none"> ・食中毒について興味・関心もてましたか。

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

2月			定期考査 観点別評価 を行う	
3月				

学校番号	3001
------	------

1 枚のうちの 1

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
農業	バイオサイエンス基礎 (自立)	2	4	微生物利用

到達目標 ※	微生物を利用した基礎的な実験技術を習得する。 バイオサイエンスの基礎的知識を習得する。
到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】	ヨーグルトの製造、乳酸菌数の測定、大腸菌検査、キノコの培養、およびアルコール発酵等の発酵実験を行う。生命の基礎的生理機構について学ぶ。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4月	ヨーグルトについて	<ul style="list-style-type: none"> ヨーグルトの製造 製品検査 乳酸菌数の計算 乳酸菌の観察 	観点別評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> 製品検査、特に酸度の計算ができるか。 希釈操作ができるか。 乳酸菌が観察できるか。
5月	微生物学史	<ul style="list-style-type: none"> 微生物学上の学者について 		<ul style="list-style-type: none"> 微生物学に興味を持てたか。
6月	大腸菌検査	<ul style="list-style-type: none"> 検査の準備 ふき取り、及び培養 大腸菌有無の確認 培地の種類 	観点別評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> 大腸菌のコロニーが識別できるか。 大腸菌検査の意義が理解できているか。
7月	培地について	<ul style="list-style-type: none"> 微生物の保存と入手方法 		<ul style="list-style-type: none"> 培地や保存方法に興味を持てたか。
8月	微生物の保存と入手			
9月	キノコの培養 カビ、酵母	<ul style="list-style-type: none"> ジャガイモ培地の調製 子実体より組織の純粋分離及び、培養 カビや酵母の種類、形態、機能 	観点別評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> ジャガイモ培地が調製できるか。 無菌操作ができるか。 カビや酵母に興味を持てたか。
10月	キノコの培養 香辛料の抗菌力試験	<ul style="list-style-type: none"> オガクズ培地の調製 斜面培地より植え付け 香辛料の抗菌力試験 香辛料の抗菌力 	観点別評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> オガクズ培地の調製できるか。 抗菌力、及び阻止円が識別できるか。
11月	細菌、放線菌 酵素実験	<ul style="list-style-type: none"> 細菌、放線菌の種類、形態、機能 アミラーゼの精製 アミラーゼの力価 	観点別評価を行う	<ul style="list-style-type: none"> 細菌や放線菌に興味を持てたか。 酵素の性質、アミラーゼ力値について理解を深めたか。

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

12月	アルコール発酵 バイオ関連産業における 基礎技術	<ul style="list-style-type: none"> ・複発酵について ・酵母によるアルコール発酵 ・単発酵 ・果実の利用 ・固定化生体触媒、バイオマス 	観点別評価 を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・発酵の種類が理解できるか。 ・アルコールの定量ができるか。 ・蒸留装置が組み立てられるか。
1月	バイオ食品について	<ul style="list-style-type: none"> ・発酵食品などのまとめ 		<ul style="list-style-type: none"> ・バイオ関連産業に興味を持てたか。 ・発酵食品に興味を持てたか。
2月				
3月				

※学習指導要領に示された教科の目標をふまえて設定すること。

別紙様式3-①の(1)に記した「学校設定科目」について、科目ごとに作成すること。

学校番号	3001
------	------

2枚のうちの1

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
農業	フードサイエンス基礎(自立)	2	4	食品化学・食品製造

到達目標	<p>食品製造に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工の原理を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。</p> <p>食品成分の分析技術の向上と安全に留意した実験態度を育成する。</p>
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前の手洗いの励行、実習前後の作業台の洗浄、床の水切りなど衛生面を徹底指導し、実習の中で意識できる授業をおこなう。 ・材料の品種や特性の話から始め、実習を通して食品製造の原理と方法を学ばせ、実践力を育てることに留意する。 ・食品の定量分析を行うための繊細で確実な器具や機器操作の修得をめざす

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
---	--------	------	------	---------

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

4月	有機化学	分子模型で有機物の構造を学習する。	数種類の有機物を造らせ確認する。	有機化学の構造を学習できたか。
5月			実験操作および電子	水分の重量計算
6月	水分の定量	小麦粉中の水分量を乾燥法より算出し、水分の役割について学習する。	天秤の取り扱い。	レポートの完成度
7月	たんぱく質、アミノ酸についての定性 アミノ酸の同定	食品中のたんぱく質、アミノ酸の存在を定性実験にて確認する。 アミノ酸を試料として薄層クロマトグラフィーを行い、試料中のアミノ酸の同定を行う。	たんぱく質、アミノ酸の性質、知識を習得できたか。 滴定操作 実験結果 実験テスト	反応実験の的確さ、 実験の結果、考察 実験操作レポート 実験結果の判定 テスト
8月	農産物の加工 穀類の加工 果実類の加工	イチゴジャム製造 パン（リーンパン）製造	出欠（遅刻） 実習態度 ノート点 製品点 期末考査	興味関心を持ち意欲的に実習に取り組んでいるか。 製造方法や原価計算，感想などレポートを完成させているか。 製造技術を習得しているか。 食品に関する知識を習得しているか。
9月	糖質の定性	ブドウ糖、でんぷんを用いての呈色反応および比較を用い性質や知識を深める。	糖質の知識 実験操作	実験操作、結果 レポート
10月			反応観察度	実験操作
11月	糖質の定量	ソモギー法を用いてブドウ糖の定量	時間の正確さ 滴定操作	実験結果、考察 レポート
12月		ジュースの中の糖分を定量する。	実験確認テスト (結果を記念祭で展示)	各ジュースと実験結果の正確さ
	農産物の加工 穀類の加工 果実類の加工	パン（リッチパン）製造 リンゴジャム製造	出欠（遅刻） 実習態度 ノート点 製品点 期末考査	興味関心を持ち意欲的に実習に取り組んでいるか。 製造方法や原価計算，感想などレポートを完成させているか。 製造技術を習得しているか。 食品に関する知識を習得しているか。

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

1月	灰分の測定と試料の調整	ほうれん草の灰分を測定 無機成分の分析の前処理	実験器具の名称使 用法	実験操作 実験結果
2月			実験操作の正確さ	レポート
3月	食品中のリンの定 量	モリブデン青比色法を用い てほうれん草に含まれるリン の定量をおこなう	無機質の知識 光電比色計の使用 法	光電比色計の使用法のテスト
	ビタミンCの定量	インドフェノール滴定法を用 いてイチゴのビタミンC の定量を行う。	計算方法の習得 滴定操作 実験操作の正確さ	計算結果 レポート 実験操作 計算結果レポート
	発酵食品の製造 みその製造	製麴 みその仕込み	出欠（遅刻） 実習態度 ノート点 学年末考査	興味関心を持ち意欲的に実 習に取り組んでいるか。 製造方法や原価計算，感想 などレポートを完成させて いるか。 製造技術を習得している か。
	年間を通じて残り2単位はレポートの作成をする	ワードを使用して情報教室 で作成させる	レポートの作成状 況	食品に関する知識を習得し ているか。

学校番号	3001
------	------

1 枚のうちの 1

令和4年度「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

教科	科目	開設学年 (年次)	単位数	教材名等
農業	キャリアアップ	2	2	日本語ワープロ検定試験模擬問題集

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロ文章作成の能力・技能を身につける。 ・生物分類技術検定、農業技術検定に合格できるための知識を身につける。
到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】	<ul style="list-style-type: none"> ・ワープロ検定（日本情報処理検定協会）資格取得にむけての実技練習を行う。 ・生物分類技術検定、農業技術検定の資格取得を目指して学習を行う。

月	単元・教材名	指導内容	評価方法	評価のポイント
4	受験級決定の速度テスト 農業技術検定・生物分類技術検定について	3級の模擬試験で入力速度をテスト、めざす受験級の決定 検定試験の意義、試験までの学習のすすめ方について	入力文字数で評価（入力数伸び率による） 取組みの姿勢と出席状況	正しい姿勢で入力できているか 真面目に授業にのぞんでいるか より上の受験級をめざし努力できているか
5	速度を中心とした練習	初歩の生徒には基本的な文字の入力とタッチタイピングの指導	観点別評価	ビジネス文書の構成をよく理解し作成できているか 生物分類技術検定・農業技術検定の資格取得ができているか、
6	過去問題からの演習	ワードの基本的な操作についての指導 農業および生物分類に関する基本的知識についての整理、確認		
7	文書を中心とした練習 検定試験の模擬試験	ビジネス文書の構成（前付け 時候の挨拶 付記）についての指導 検定試験に備えた実践学習	ワープロ検定の採点基準の採用	
8			取組みの姿勢と出席状況 観点別評価	
9	文書を中心とした練習	ビジネス文書の構成（前付け 時	授業態度	真面目に授業にのぞんでいるか

学設_2年キャリアアップ_R4シラバス

1 0	過去問題からの演習	候の挨拶 付記) についての指導 第1回検定結果をふまえての受験級位の確認	提出物	板書をノートに書き写しているか
1 1			定期考査	農業技術検定の資格取得ができているか
1 2	検定試験の模擬試験	検定試験に備えた実践学習	観点別評価	
1	文書を中心とした練習			
2	まとめ学習			
3				

